

「防災講演会」実施報告

自然災害の発生やインフルエンザ・ノロウィルスの流行など、重大な危機発生時に組合員へのお役立ちと社会的責任を果たし、一刻も早い事業再開を実現するための**大規模災害時事業継続計画(BCP)**について、“**東日本大震災の教訓を踏まえて**”学ぶ機会とした。

◆平成24年2月6日(月)13:30～16:00

◆愛知県共済会館 8階 大会議室

BCP (business continuity plan)

事業継続計画 / ビジネスコンティニュイティ・プラン

＜参加者＞19生協30名、県行政1名、連合会3名、講師1名 計35名
かりや愛知中央2名、トヨタ3名、トヨタ車体2名、オークマ1名、愛知県職員1名
愛知県警察職員1名、県民共済愛知県1名、あいち1名、アイチョイス1名
一宮3名、愛知県労働者共済2名、愛知県共済2名、名古屋市民火災共済1名
北医療1名、南医療1名、コープあいち2名、東海コープ事業連合2名
大学生協東海事業連合1名、住友ゴム工業名古屋2名

講演 「大規模災害事業継続計画(BCP)その2」

講師:シーマ・ラボ・ジャパン

代表取締役 上田 悦久 氏

3. 11の東北大震災を事例に考える

◆直面した問題

- 被害状況の把握困難(メディアの偏り)
- 余震多発
- 液状化(住宅地だけでなく、工業団地、物流センターでも)
- 帰宅困難、通勤困難(都市部で)
- 電力不足(計画停電・節電)
- 物流停滞
- サプライチェーン途絶(原材料不足・販売キャンセル)
- 風評被害(放射能など神経質で過剰な消費者)
- 長期・広域支援体制
- 緊急物資不足(特に水・食糧)・物資供給協定
- 社長・役員不在(出張中)
- 年度末決算

◆多くの「想定外」の影響が発生した◆

◆BCP作成のヒントとして

受援計画の目的

- ・緊急時に経営資源を集中させる
- ・外部からの支援を受ける業務と方法の明確化
- ・誰にどんな支援を依頼するか明確化

◆教訓⇒使命

- 生協は、誰のために、何をする
「組合員を支援できない」を起こさない覚悟
- 経験を無駄にしない
- 想定外の言い訳は、専門家として自己否定
- 次の危機事象では、無策は人災

- ◇BCPで、もう人災を起こさない
- ◇BCPは、簡素でわかりやすく、誰にでも使えること
- ◇BCPは、身の丈、できる範囲で考える
- ◇BCPを、完璧にしようとするな
- ◇BCPに、魂を入れよう
- ◇BCPが、想定外をなくす